

平成20年度当初予算関係等
研究評価結果報告書

平成20年度県試験研究機関一般研究課題

平成20年度県試験研究機関業務課題

平成20年度県試験研究機関公募型課題

平成20年度県価値創造型研究開発事業課題

平成19年度県試験研究機関追加研究課題

平成20年3月

山形県研究評価委員会

研究評価に係る基本的な考え方

県はこれまでに試験研究のあり方について議論を進め、平成15年度に「山形県試験研究機関機能強化基本戦略」を、16年度に「山形県試験研究機関機能強化基本戦略Ⅱ」を決定し、さらに平成17年度には県が取り組むべき科学技術政策の基本方針とその推進方策を示した「やまがた科学技術政策大綱」を策定した。

新たな大綱では、価値を創造する科学技術の基盤づくり、知的財産の戦略的な創出・活用の促進、人材の育成及び人的ネットワークの形成を柱として、科学技術の振興に向けた施策を総合的に展開することとしている。このため、県の試験研究機関は研究の芽出しと発展性や実現可能性を踏まえた研究の重点化、産学官・広域連携による取り組みや融合分野におけるプロジェクト創出など、新しい価値や技術・産業の創出に貢献できるよう研究開発を推進する必要がある。

この大綱に沿った展開が求められるなか、平成20年度当初予算における試験研究関連経費については、これらの試験研究機関の機能強化を図るためのプロセスに沿って、アドバイザー・ボード、研究評価委員会による外部評価を踏まえつつ、部局横断的な予算調整を実施することとされた。

本評価委員会では、試験研究の効果的、効率的な展開を願って、県の基本方針及びアドバイザー・ボードからの意見を踏まえ、融合分野研究、広域連携研究等の研究機関や研究領域、県域を越えた連携等により、的確に成果を生み出そうとする研究等を重視するとともに、外部資金の活用を図りながら、平成20年度県試験研究機関の実施予定課題について事前評価を行ったものである。

1 平成20年度県試験研究機関実施予定課題の事前評価

(1) 評価の視点

試験研究課題の審査にあたっては、平成20年度当初予算における試験研究関連経費の予算調整に関する基本方針「4 予算調整の際に留意する視点(1)」に示された目的の明確性、研究進度に応じた熟度、成果波及の可能性、試験研究手法の妥当性に関して、課題の設定や研究計画の内容について評価を行った。

また、業務課題の審査にあたっては、基本方針「4 予算調整の際に留意する視点(2)」に示された合目的性、発展性、戦略性、機関適格性に関して、業務の遂行計画について評価を行った。

ア 一般研究課題

評価項目	評価の視点
目的の明確性	<ul style="list-style-type: none">○目的が明確になっているか○本県の事情、時代の要請に合っているか○行政施策との整合性はとられているか○ニーズの把握は適切か○県が実施すべき研究であるか
研究進度に応じた熟度	<ul style="list-style-type: none">○研究の進捗に応じて以下の点が適正に行われているか<ul style="list-style-type: none">・関連する知見や技術的課題の明確化・新規性、独創性等の確認・競合する研究や特許等に対する優位性の検証

成果波及の可能性	<input type="checkbox"/> 成果の活用方向の検討、検証がなされているか <input type="checkbox"/> 実現可能性の検討、検証がなされているか <input type="checkbox"/> 研究成果の実用化や普及展開、波及効果が十分に期待できるか <input type="checkbox"/> プロジェクト化への展開可能性があるか <input type="checkbox"/> 知的財産権の取得見通しはあるか <input type="checkbox"/> 費用対効果の検証が適正に行われているか
研究手法の妥当性	<input type="checkbox"/> 適正な目標が設定されているか <input type="checkbox"/> 目標達成に向けた進行管理がなされているか <input type="checkbox"/> 目的に至るための様々な手法について検討したうえで適切な研究手法が選択されているか <input type="checkbox"/> 課題に見合った研究体制が組まれているか <input type="checkbox"/> 外部との連携および共同研究体制は適切か

イ 業務課題

評価項目	評価の視点
業務の合目的性	試験研究機関全体としてのミッション（期待される具体的な使命）のなかで、当該業務の位置付けが明らかにされているか
業務の発展性	当該業務が個々の試験研究とどのように関連し、どのような役割を担っているのかについて検討されているか
業務の戦略性	相談や普及、指導等の業務が、地域ニーズと研究シーズをどうコーディネートし、研究成果をどう技術移転・社会還元しようとしているのかについて明らかにされているか
業務の機関適格性	当該業務の内容が、試験研究機関の担っている役割分担や能力に合っているか、他機関との連携・協働等について検討されているか

(2) 評価の実施課題と方法

県試験研究機関が実施する試験研究101課題および業務31課題の計132課題について平成19年12月3日、4日に事前評価を実施した。

なお、評価にあたっては、平成20年度に実施する試験研究課題および業務課題全ての課題について提出された研究計画書で書面により評価したが、新規課題および中間年次に該当する課題など当委員会で選定した課題については、書面に加えプレゼンテーションとそれに対する質疑を加味して評価を行った。

これら課題の実施機関別内訳を次の表に掲げる。

機関名	県試験研究課題数		県業務課題数	
		うち発表課題数		うち発表課題数
文化環境部 環境科学研究センター	0			
健康福祉部 衛生研究所	5	5	2	
商工労働観光部 産業創造支援センター 工業技術センター（置賜、庄内試験場含む）	0 24	15	7	
農林水産部 農業総合研究センター農業環境研究部	13	4	6	
農業総合研究センター農業生産技術試験場	18	8	3	
農業総合研究センター農業生産技術試験場庄内支場	5	3	2	

農業総合研究センター畜産試験場	6	4	2	1
農業総合研究センター畜産試験場養豚支場	1	1	1	
水産試験場	3	1	3	
内水面水産試験場	4	2	1	
森林研究研修センター	1 1	5	4	
村山総合支庁農業技術普及課産地研究室	1	1		
最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	4	2		
置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室	2	1		
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	4	3		
計	1 0 1	5 3	3 1	1

(3) 評価結果の概要

個別課題の結果と意見は別添資料のとおりである。

① 評価結果

評価結果		課題数	
		研究	業務
・今後の研究展開が期待でき、要求どおり措置し、実施すべき課題 ・公募型研究課題にあっては、今後の研究展開が期待でき、申請を妥当とする課題	◎	4	0
・概ね的確であるが、さらに研究計画を精査し、または研究を特化したうえで実施すべき課題 ・公募型研究課題にあっては、申請を妥当とする課題	○	4 4	2 4
次の事項に係る研究会の実施等から取組みが求められる課題 ・研究の手法、競合研究や周辺特許などの状況について調査・学習 ・市場性、マーケティング戦略、研究や産業化の実現可能性等の調査検証 ・公募型研究課題にあっては、内容の見直しをして進めるべき課題	△	4 8 (5 3)	7
提案内容について今後さらなる検討を要する課題	×	5 (0)	0

※ () は再検討後の課題数

② 研究の熟度評価

研究の熟度	熟度評価	課題数
・研究開発を実施していく段階にあるもの	A	6 7
・フィジビリティスタディ、マーケティング調査などを実施すべき段階のもの	B	2 6
・事前調査等研究会レベルから実施すべき段階のもの	C	8

③ 研究計画の再検討

評価結果について、「△」とされた県の研究課題については、評価結果に記載した助言・指導等を踏まえ、関係部局において研究計画の再検討を促した。

また、「×」とされた課題については、研究計画の見直しを指導し、再度提出された計画を再検討した結果、「△」の評価とした。

④ 事前評価における主な意見

ア 研究計画について

- ・アドバイザー・ボードの専門的指導が生かされ、研究の準備と研究計画書の内容が充実されてきた。
- ・新規性をねらうのか、地域や行政等からの要請で行うのか、必要性和戦略を明確に主張していただきたい。
- ・研究・開発実験の所内での準備経過，専門領域での技術の位置づけ，地域での位置づけを簡潔に記述していただきたい。
- ・研究課題の位置付けが明確でない課題が散見された。施策上の位置付けを明確にすべきである。
- ・概念論・目的論だけではなく具体的データを示し、計画時点での作業仮説を明示して論述すべきである。
- ・これまでの研究成果をもっとアピールする必要がある。これを踏まえたうえで当該研究の優位性や発展性を強調した方が良い。
- ・既知の技術を活用する研究では、成果レポートのトレースにならないように注意し、データや他の知見を十分整理したうえで、視点を明確にした計画を策定してほしい。

イ 研究発表について

- ・研究評価当初に比べてプレゼンテーションが格段に向上している。
- ・質問に対して的を射ない回答が時々見受けられた。ポイントをまとめ的確に答えるよう常に心がけていただきたい。

ウ 研究機関の連携について

- ・「山形特産野菜課題」のような分野横断的な研究の成果がみられてきたが、今後も新たな分野での研究展開を期待したい。
- ・県試験研究機関全体で定期的に情報交換を行い、相互に情報発信のできる場を設定することで、新たな研究の萌芽・創出や連携の手助けになる。コーディネートのできるメンバーを加え積極的に組み合わせを支援することにより良いものが生まれることが期待される。

エ その他

- ・研究の視点や研究内容が精査されるようになり、公募型研究課題が多く採択されるようになったことは喜ばしいことである。
- ・作業仮説を立てないで研究に入っているような説明の課題が見受けられる。予備調査や予備実験、既知の技術等の調査などFSを実施し、研究、実験結果の仮説を明確に持って研究に臨み、取得した成果と比較検討を深め、効率的な研究を進められたい。
- ・森林研究研修センターが文部科学省科学研究費補助金に応募できる機関に指定されたことは喜ばしい。他の機関でも積極的に機関指定を目指してもらいたい。
- ・より良い研究を行うためには、研究環境、研究者の配置や組織体制を考慮していく必要があり、後継者の育成にも配慮すべきである。
- ・業務課題については、これまでの評価実施に関する経過も踏まえ、助言指導を重視した評価法への変更等を検討してはどうか。
- ・大学や企業等の研究課題で専門的な見地から評価が必要と判断される課題については、これに関する専門家から書面等で意見を求めておくこともお願いしたい。
- ・未来農業研究会の成果等公表可能な資料については、HPへの掲載等を通して積極的に公表してほしい。

2 平成20年度山形県価値創造型研究開発推進事業課題の事前評価

(1) 評価の視点

山形県価値創造型研究開発推進事業は、本県における戦略的研究プロジェクトの創出と競争的研究資金獲得を目的に、新たに実施する研究事業である。

応募課題の審査にあたっては、平成20年度山形県価値創造型研究開発推進事業実施要領（以下、「実施要領」という。）に基づき、若手研究者スタートアップ推進枠については、研究の創造性・明確性、研究の発展性、成果波及の可能性、研究手法の妥当性に関して、戦略的研究プロジェクト創出枠については、目的の明確性、成果活用の見通しと実現可能性研究計画の戦略性、研究手法の妥当性に関して、課題の設定や研究計画の内容について評価を行った。

①若手研究者スタートアップ推進枠

将来の県試験研究機関等を担う若手研究者が、本県の地域ニーズに対応した研究シーズを発掘するための芽出し研究や基礎研究を行う機会を確保し、将来の実用化研究に向けて、ステップアップが図られるようにスタートアップ研究を支援するもの。

【評価項目】

評価項目	評価の視点
研究の創造性・明確性	○新規性、創造性があるか ○研究目的が明確になっているか ○地域ニーズの把握が適切に行われているか
研究の発展性	○本研究期間終了後の展開方向性が明確であるか
成果波及の可能性	○研究成果活用の見通しを明確に保持しているか ○将来の実用化研究に向けた取組みとなる研究であるか
研究手法の妥当性	○目的に至るための様々な手法について検討したうえで適切な研究手法が選択されているか（広い視野・異分野等）

②戦略的研究プロジェクト推進枠

本県の優れた特質や知的資源を活かし、研究開発を戦略的に展開するため、大学等高等教育機関や県試験研究機関、民間企業等が有するシーズの芽出し、研究開発のプロジェクト化、研究成果の事業化・社会還元に至る研究発展のプロセスに応じた戦略的な研究を創出することを目的とするもの。

【評価項目】

評価項目	評価の視点
目的の明確性	○本県への社会還元が可能か ○研究目的が県内産業及び県民生活との関連性があり、本県の経済・社会ニーズに対応した内容であるか
成果活用の見通しと実現可能性	○研究成果の実用化や普及展開が期待できるか ○研究の進捗に応じた技術課題や競合研究等に対する具体的優位性の検証が行われているか
研究計画の戦略性	○研究計画の戦略化が明確であり、次ステージにおいて、競争的外部資金への獲得等を視野に入れているか ○プロジェクト化への展開可能性があるか

研究手法の妥当性	○研究計画において適正な目標が設定されており、目標達成に向けた各課題に見合った研究体制、進行管理がなされているか ○目的に至るための様々な手法について検討したうえで、適切な研究手法が組み立てられているか
----------	--

(2) 評価の実施課題と方法

平成20年度の山形県価値創造型研究開発推進事業については、若手研究者スタートアップ推進枠が5課題、戦略的研究プロジェクト創出枠が12課題、合計17課題の応募があった。応募は大学等から6課題、県試験研究機関から11課題であった。

応募課題について、実施要領に基づき提案書の書面評価を実施した。

【応募機関】

機関名	若手研究者スタートアップ推進枠	戦略的研究プロジェクト創出枠
文化環境部 環境科学研究センター		1
健康福祉部 衛生研究所		
商工労働観光部 産業創造支援センター 工業技術センター	1	1
工業技術センター置賜試験場		1
工業技術センター庄内試験場		1
農林水産部 農業総合研究センター農業環境研究部		1
農業総合研究センター農業生産技術試験場	1	
農業総合研究センター農業生産技術試験場 庄内支場		
農業総合研究センター畜産試験場		
農業総合研究センター畜産試験場養豚支場		
水産試験場 内水面水産試験場		
森林研究研修センター		
村山総合支庁農業技術普及課産地研究室		
最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	2	
置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室		1
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	1	
小計	5	6
大学等		6
計	5	12

(3) 採択結果

	若手枠	戦略枠
採択数	4	7 (うち2は若手枠で採択)
不採択数	1	5

3 平成20年度公募型研究課題の事前評価

(1) 評価の視点

一般研究課題と同様に目的の明確性、研究進度に応じた熟度、成果波及の可能性、研究手法の妥当性に関して、課題の設定や研究計画の内容について評価を行った。

(2) 評価の実施課題と方法

平成20年度の競争的公募事業に応募し、新たに研究実施予定の17課題について、平成20年1月に書面評価を実施し、研究計画への質疑等を行ったうえで、申請の際に参考とするための指導助言および評価結果をとりまとめた。

(3) 評価結果

評価結果		研究 課題数
要求どおり措置し、実施すべき課題	◎	
・研究計画の精査、または研究を特化したうえで実施すべき課題 ・公募型研究課題にあつては、申請を妥当とする課題	○	7
次の事項に係る研究会の実施等から取組みが求められる課題 ・研究の手法、競合研究や周辺特許などの調査・学習 ・市場性、マーケティング戦略、産業化の実現可能性等の調査検証 ・公募型課題にあつては、申請内容の見直しを必要とする課題	△	10
提案内容について今後さらなる検討を要する課題	×	

4 平成19年度県試験研究機関追加研究課題の事前評価

(1) 評価の視点

目的の明確性、研究進度に応じた熟度、成果波及の可能性、研究手法の妥当性に関して、課題の設定や研究計画の内容について評価を行った。

(2) 評価の実施課題と方法

平成19年度実施予定課題のうち研究評価未実施の工業技術センターの4課題について、平成20年1月に書面評価を実施し、研究計画への質疑等を行ったうえで、指導助言および評価結果をとりまとめた。

(3) 評価結果

評価結果		研究 課題数
要求どおり措置し、実施すべき課題	◎	
・研究計画の精査、または研究を特化したうえで実施すべき課題 ・公募型研究課題にあつては、申請を妥当とする課題	○	
次の事項に係る研究会の実施等から取組みが求められる課題 ・研究の手法、競合研究や周辺特許などの調査・学習 ・市場性、マーケティング戦略、産業化の実現可能性等の調査検証 ・公募型課題にあつては、申請内容の見直しを必要とする課題	△	4
提案内容について今後さらなる検討を要する課題	×	

平成20年度県試験研究機関課題 事前評価

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	区分	
1	浮遊アレルゲンの高感度測定法の開発	衛生研究所	○	A	花粉に加え他のアレルゲンを対象とした研究成果もみられています。今後、汎用性の高い手法による高感度測定法の開発とその展開・普及に期待します。
2	山形特産野菜を活用した機能性食品の開発 (機能性食品としての食用菊の利用法開発)	衛生研究所	○	A	3機関個々の成果がよく出ています。今後も連携をより密にし、成果である抗ヒロリ菌作用等の検討を深め、これらを活かし、食用菊の付加価値向上をめざした戦略的な取り組みに期待します。
3	植物性自然毒による健康被害防止のための毒性研究	衛生研究所	○	A	県民の健康被害の防止に関わる重要な課題です。前課題の成果である独自シースを活かし、新たな検査手法への展開や分離精製した物質等の知財化に向けた検討等の取り組みに期待します。
4	山形県におけるつが虫病の疫学的研究	衛生研究所	○	C	県民の健康被害の防止に関わる重要な課題です。他地域の情報等も収集しながら、生態や血清型等を解明し、予防・診断法を早期に確立されたい。
5	ESRラジカルイムノアッセイ法等を応用した空中インフルエンザウイルスの検出および抗インフルエンザ活性物質の分離	衛生研究所	△	C	インフルエンザウイルスの空気感染の可能性に関する知見がないことなど、ウイルスの採取法と検出可能性について多くの課題があると考えられます。国研等関係機関と連携を図り、可能性の高い手法により着実に取り組んでいただきたい。
6	職員研修費	衛生研究所	○	業務	最新情報等の習得・研修は高い技術・研究レベルを維持するためには必要なものと認められます。
7	衛生研究所施設・設備整備費	衛生研究所	○	業務	研究開発、調査・検査・指導等の業務に必要な備品・設備と認められます。
8	超精密加工技術・評価技術の開発	工業技術センター	○	A	常に目的を明確にし研究成果を把握しながら、企業と連携を図って進めていただきたい。
9	高硬度金型材・脆性材料の超精密微細加工技術の開発	工業技術センター	○	A	これまでの研究成果も踏まえ、本研究の成果が県内企業に定着するように積極的に技術移転を図っていただきたい。
10	特殊加工による微細堆積加工技術の開発	工業技術センター	○	B	これまでの成果や既存の知見を整理しながら進め、早期の技術確立を期待します。
11	低コスト赤外光学素子製造技術の開発	工業技術センター	○	A	将来、応用分野が広がるのが期待できます。材料の性質の制御が鍵と思われるので、成形加工関連分野の技術者とも連携を取って進め、早期の製造法確立を期待します。
12	CNT複合めっき被膜を用いた高性能・高寿命電着工具の開発	工業技術センター	○	A	新しい技術の開発として知財戦略を十分考慮し、次の研究ステージを意識して進めていただきたい。
13	高速非球面ガラスレンズ成形システムによる光学素子の低コスト化	工業技術センター	○	A	県で有する技術を活かした取組みであり、新しい製造システムの開発として評価できます。連携機関と密に連携を取りながら着実に取り組んでいただきたい。
14	低干渉光を用いた光計測応用技術の開発	工業技術センター	○	A	研究成果の具体的な利用企業や活用場面を想定しながら、高精度の測定器として早期に完成されることを期待します。
15	MEMS型可動グレーティングを用いた高精度3次元計測技術の開発	工業技術センター	○	A	研究計画及び成果目標について明確であり、携帯3次元計測器の実用化など期待できる基礎研究です。
16	MEMS技術を用いた水質検査用マイクロ化学チップの開発	工業技術センター	○	B	マイクロ化学チップでの水質検査器を開発ターゲットにしており、戦略が良くできている。製品化できるように、早急に成果を出していただきたい。
17	木材への機能性付与技術の開発	工業技術センター	×	A	塗装劣化等に関する制御因子等を明確にしそのデータに基づき結果を評価するなど、成果の利活用に向け研究の最終年度におけるとりまとめ方が明確になるよう再構築されたい。
18	「出羽の里」を使用した吟醸酒・純米酒の試験試験	工業技術センター	△	A	「出羽の里」使用によるメリットを活かし、「出羽燗々」使用酒の消費量を減らさず、「出羽の里」使用酒の販売を伸ばすことを開発戦略として考えていただきたい。
19	山形県産酒造米「出羽の里」を用いたコクのある発泡清酒の開発	工業技術センター	○	A	新たなカテゴリーの製品であることから、常に市場を意識しながら戦略的な展開を期待します。
20	貴腐菌を利用したワイン製造技術の開発	工業技術センター	△	B	本研究の独自性、優位性を保つため、他県の状況のほか、独自の成果や具体的アイデアについても説明が必要です。ぶどう品種そのものの研究も含めて、時間に埋もれてしまわない積極的な展開を期待します。
21	県産農産物を利用した地域性の高い高齢者用食品の開発	工業技術センター	△	C	新しい高齢者用食品の開発研究として評価しますが、物性とともな美味しさ(味、香り)についても前面に打ち出して開発を進めていただきたい。
22	県産紅花の加工と活用技術の開発	工業技術センター	×	C	成果の利活用について、ターゲットや技術移転の方法を具体的に明確にされた。その上で、他機関との連携や食品素材としての展開についても検討してください。
23	捺染柄・緋柄複合織物の開発	工業技術センター	△	A	完成した技術をどのように普及しどのように生産していくのか十分検討していただきたい。消費者へどうアピールするかも考慮した展開を期待します。
24	山形特産野菜を活用した機能性食品開発	工業技術センター	○	A	3機関個々の成果がよく出ています。今後もより連携を密にし、食用菊への付加価値付与をめざした戦略的な取り組みに期待します。
25	粒状セメント球状黒鉛鋳鉄の開発	工業技術センター	○	B	粒状セメントを均一に分散させるための最適条件を追求し、早期に良い成果が得るように期待します。
26	恒温処理によるベイナイト鋳鉄の開発と応用	工業技術センター	○	B	成果を速やかに特許化するなど、本県の自動車部品等産業の発展に活かせるよう、戦略的に進めていただきたい。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	区分	
27	鑄鉄の黒鉛組織超微細化に関する研究	工業技術センター	△	B	2段階接種については種々の困難が予想されます。十分にデータを蓄積して基礎的な検討を深め、技術の確立を計画的に進められたい。
28	レーザー溶接法による異種金属接合技術の開発	工業技術センター	○	B	研究の進め方を加速しながら、本研究の独自性、優位性を保てるように、早期の課題克服を期待します。
29	新規金型材料を用いた精密成形技術の開発	工業技術センター	◎	A	産官学の特長を生かした共同研究であり、期待した成果も出始めている。実用化に向けた戦略をしっかりとって今後の研究を進められたい。
30	組込み産業基盤醸成事業	工業技術センター	△	B	技術者の育成は重要であり、ケーススタディとして山形ならではの応用の基盤となるようなものを取り上げ、周辺の関連技術者を巻き込んで進めて欲しい。
31	フルーツエッセンスによる地域ブランド商品開発	工業技術センター	○	A	効率的で低コストの抽出法を早期に確立していただきたい。今後、利用者へのインバクトを考えた戦略を組み立てることを期待します。
32	超精密共同研究・超精密ORT研修	工業技術センター	○	業務	県内企業への成果普及には、確実に企業活動の利益になるところまでフォローすることが大事であり、着実に進められたい。
33	企画情報事業	工業技術センター	○	業務	県内企業の求める研究開発情報や技術情報の調査・指導のほか、研究成果を整理、発展させる上でも必要な事業であり、着実に進められたい。
34	高度技術者育成支援事業	工業技術センター	○	業務	若い研究者、技術者の養成と専門分野でのネットワーク構築が重要であり、必要と認められます。
35	施設・研究機器保守検定事業	工業技術センター	○	業務	研究、検査等に機器の保守、点検は不可欠であり、必要と認められます。
36	ものづくり企業支援事業	工業技術センター	○	業務	開発技術の効率的な移転や独創的かつ高付加価値研究テーマの発掘などに繋がる企画であり、着実に進められたい。
37	指導試験事業	工業技術センター	○	業務	企業活動の把握、技術指導に重要な業務の一つであり、必要と認められます。
38	委託分析試験事業	工業技術センター	○	業務	県内企業の支援事業として重要な業務の一つであり、必要と認められます。
39	地域バイオマス資源を利用した高機能有機質資材の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	A	本資材の新規性、優位性をアピールするとともに、導入者が見て分かりやすい経済性評価の作成を目指してください。
40	米ぬかを利用した土壌病害対策と肥培管理技術の確立	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	B	肥効に関する先行データについても確認、収集するとともに、米ぬか使用の有効性についての解析、検証を早急に行い、本県での実用可能性を検討されたい。
41	田畑輪換が温室効果ガス発生量に及ぼす影響の総合評価	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	A	微生物などのガス発生に関わる因子についても考慮しながら、発生メカニズムを明らかにするとともに、得られた成果を分かりやすく説明するよう工夫されたい。
42	水田内における斑点米発生機構の解明	農業総合研究センター 農業環境研究部	○	A	これまでの成果を整理し、カメムシ発生機序などを明らかにしながら、共同研究機関との連携を密にして進め、防除に役立つ成果が出ることを期待します。
43	野菜類の品目別ガドミウム濃度の解明と吸収抑制技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	A	水稲における成果の検証、各品目間における比較などの基礎研究を行い、他の作物に応用可能な成果が出ることを期待します。
44	花き類病害の双方向型総合診断・防除システムの開発及び公開	庄内産地研究室 農業総合研究センター 農業環境研究部	○	A	普及広報を図り、現場での活用が行われるよう周知に取組んでいただきたい。
45	山形特産野菜(食用ぎく)を活用した機能性食品開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	○	B	3機関個々の成果がよく出ています。今後も連携をより密にし、食用菊への付加価値付与をめざした戦略的な取り組みに期待します。なお、先行製品に対する優位性についても意識して開発を進められたい。
46	県特産果実を利用したオリジナル果実酢製造技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	B	経営モデルをよく検討し、ターゲットを明らかにするなど、戦略の組み立てに基づいて研究を進められたい。
47	「大豆圧搾ミール」を活用した低脂質・高タンパク食品の実用化	農業総合研究センター 農業環境研究部	○	A	先行研究を含め来年度で5年目となる研究であることから、確実に成果を技術移転し、数多くの加工品が製品化されるよう期待します。
48	県特産果実ラ・フランス周年利用のための高品質加工保存技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	B	事業目的である農業サイドが利用できる技術について、早期に絞り込みを行い、技術移転へと進められたい。
49	転換畑大豆の収量と品質を向上させる新たな生産技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	×	B	19年度の研究の中間結果をベースに課題を整理し、特色を明確にして研究計画を再構築されたい。
50	そばの安定生産に向けた多収品種の育成及び多収栽培技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	B	品種の育成を計画的に行いながら、着実な成果をあげられたい。食味のよさを前提とした品種開発だと思っておりますので、その点もアピールされたい。
51	ラズベリーやカシスを中心としたベリー類の加工利用技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	B	既存技術やデータを十分参照、吟味し、機能性成分の分析、研究等については、関係機関間で情報を共有しながら進められたい。スタートアップ戦略としては、ニッチ分野での製品化を期待します。
52	農産物加工開発技術指導	農業総合研究センター 農業環境研究部	○	業務	農産物の産業化にとって重要な業務です。
53	水稲畑作物奨励品種決定調査	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	業務	有望な品種の選定・育種のために必要な業務です。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	区分	
54	新農薬(殺虫剤・殺菌剤)の効果と使用方法試験	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	業務	本県の防除基準採用のための基礎資料とするうえで必要な業務です。
55	新除草剤及び新植物調節剤に関する試験	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	業務	本県の除草剤使用基準等採用のための基礎資料とするうえで必要な業務です。
56	新肥料及び新資材に関する試験	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	業務	必要な業務である。得られた情報を次の研究に活かせるようにしてほしい。
57	稲品種登録に係る系統調査	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	業務	種苗法に基づく品種登録の基礎資料を得るために必要な業務です。
58	おうとう新品種の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	本県おうとう産業の活性化のため、戦略的に新品種の開発を進められるよう期待します。食味・健康・機能に関わる既存知見を活用した品種の開発も検討されたい。
59	西洋なしオリジナル優良品種の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	早生品種については、市場ニーズなどを把握しながら開発を進められるとともに、山園P2号については生産者に対すすみやかに普及を図っていただきたい。
60	りんごオリジナル優良品種の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	他産地の競合する品種の動向を常に意識しながら、競争力のある新品種の開発及び生産者への普及を進めていただきたい。
61	いちごオリジナル新品種の開発	庄内産地研究室	△	A	「砂丘S6号」を含め、競合他品種との比較によりターゲットを明確にし、付加価値の高い品種の開発を進めてください。
62	食用ぎくオリジナル品種の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	△	B	市場ニーズの把握について、他の実施課題「食用ぎくの機能性食品の開発」と情報交換するなど連携を取りながら進めていただきたい。
63	りんどうオリジナル優良品種の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	△	A	5か年の最終年であることから、次のステップを見据え研究の取りまとめを図られたい。
64	県ブランド維持のための県オリジナル品種のDNA品種識別技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	本県オリジナル品種の信頼性を高めるために必要な研究である。本研究を進展させる過程において、品種改良の効率化につながるような成果についても期待する。
65	おうとうのDNA品種識別技術の開発と果実加工品のDNA鑑定	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	◎	A	本県のおうとうブランドを守るために必要な技術であり、この技術の確立により、大変意義のある研究である。他の農産物の識別の基盤技術としても期待できる。
66	低樹高・新型雨よけ施設におけるおうとうの軽労安定生産技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	△	A	資材メーカー等との連携も行いながら、実用化に向けて進めただくとともに、樹形と受光、光合成の関係などの基礎的なデータも取って成果を示していただきたい。
67	ぶどう「シャインマスカット」の産地化推進技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	△	A	ばらつきの解消等栽培技術の確立を目指す過程で、競合他産地に優る食味の向上も図られたい。
68	掘り上げ促成アスパラガス栽培における簡易栽培技術と収穫期調整技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	これまでの研究の成果が普及し切れなかったことを踏まえ、着実な普及が可能な技術の開発を急がれたい。
69	すいかの整枝作業省力・安定栽培技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	△	A	作付面積等の減少要因と本技術の移転を想定している農業者との関係を改めて検討し、技術の効果を見極められたい。
70	さくら等切り枝のブランド力強化技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	B→C	本研究の成果により、本県の花き産業のNO.1戦略が構築されるよう期待します。
71	オリジナル四季成りいちごの産地化技術の開発	最上産地研究室	△	A	4公所で行う研究であるため、データの把握と情報の共有化を図り、汎用性があり、地域の特色を出した技術開発に結び付けられたい。
72	東北地域における農薬50%削減りんご栽培技術体系の確立	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	本研究成果は、本県の代表的な果樹に対する農薬削減のモデルとなることから、技術を速やかに普及されることを期待します。
73	国産果実の輸出促進に向けた低コスト生産・流通システムの開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	競合も多く技術課題も多岐に渡るが相手国ごとの異なるニーズを十分に把握し、生産技術まで結びつけていただきたい。
74	積雪地帯における遠赤色光発光光源を利用した切り花の生産安定化技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	研究最終年度であり研究成果の移転について、状況の把握(共同研究者間での知財戦略等)も含め、推進戦略を立てられたい。
75	おうとうの中晩生種に発生する果実病害の生態解明と防除対策の確立	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	△	A→C	発生状況を正確に把握し、その機序を明らかにした上で防除対策を確立するなど、明確な研究計画を立てられたい。
76	バラの環境負荷軽減減養液栽培技術の確立	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	研究最終年度であることから、実用化を進めるため共同研究機関と成果を取りまとめられたい。
77	早生りんご新系統の早期成園化と安定生産技術の確立	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	A	有望な品種であることから、すみやかに技術を確立し、普及を図っていただきたい。
78	日本海側気候を活用した新しい省エネルギー型施設栽培体系の構築と導入	最上産地研究室	△	A	喫緊の課題であり、検証できた部分的な成果からでも実用化を図られたい。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	区分	
79	特産園芸作物の原種苗の供給	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	業務	試験場としてウイルスフリー原種苗の維持、供給は重要です。
80	園芸作物の奨励品種決定調査	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	○	業務	現地での奨励品種の妥当性を検証する上で必要不可欠の調査です。
81	野菜花き民間育成品種の評価	農業総合研究センター 農業生産技術試験場	△	業務	得られた知見については、生産者に対しすみやかに情報提供し、普及を図っていただきたい。
82	第Ⅳ期水稲主力品種の育成	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	△	A	開発目標を定めるにあたって、消費動向を調査するなど、ターゲットを明確にするよう努められたい。
83	"おらがやまがた"地域特産型水稲品種(A BC品種)の育成	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	△	A	既に育成された品種の問題点及びその克服について検討するとともに、それぞれの米の高付加価値化のための研究を加速していただきたい。
84	DNAマーカー利用による水稲の高精度な 育種法の確立	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	△	A	効率的な育種を行ううえで必要となる手法です。技術の蓄積を重ね、今後、いもち病抵抗性以外の特性に関しても順次活用していかれるよう期待します。
85	低アミロース品種「里のゆき」の品質向上・ 安定化要因の解明と技術確立	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	△	A	遺伝的要因についても検討するなど、温度以外の変動要因についても吟味しながら進め、良い予測モデルができるよう期待します。
86	新品種候補系統の技術的評価と栽培法の 確立	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	△	A	これまでの経験を活かし、高品質米の栽培に向け、完成度の高い栽培マニュアル、適地マップが作成されることを期待します。
87	主要農作物作柄安定対策調査	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	○	業務	必要な業務です。調査の具体的な効果について検証しながら進めてほしい。
88	稲民間育成品種の評価試験	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	○	業務	本県の地域特性を把握するうえで必要な業務です。今後の新品種育成に役立てられたい。
89	重要資源の初期加入量調査	水産試験場	△	B	本県にとって必要な調査研究です。他県と連携しながら、信頼性のある調査情報の提供とともに効率的な予測手法等の開発に期待します。
90	漁業障害回避技術の開発	水産試験場	○	B	県として取り組むべき課題です。国や他県とも情報交換を行いながら、有用な漁具の改良・開発に取り組み、漁業者への普及につながる指針策定に期待します。
91	カニ類養殖実用化のための技術開発	水産試験場	△	A⇒B	基礎的な研究も継続しながら、生産コストや市場を想定したうえで、一連の技術課題を整理・解決して早期の実用化・技術移転を進めていただきたい。
92	底びき網漁業漁期前調査	水産試験場	○	業務	必要な調査で、漁業者に有用で信頼性の高い情報を提供していただきたい
93	新漁業管理制度推進情報提供事業	水産試験場	○	業務	業務の根幹をなすものです。国や他県の調査データを共有することで広域の資源情報等を把握しながら、本県での有用な情報提供に努められたい。
94	サケ・サクラマス資源調査	水産試験場	○	業務	安定利用と資源回復を図るためのデータ蓄積は必要です。効率的な調査に努められたい。
95	最上川における効果的なアユ禁漁設定に 向けた調査	内水面水産試験場	△	B	継続調査データの信頼性を高めて、不漁の要因や禁漁の効果に関する解析に努め、本県アユの資源回復にとって最も効果的な禁漁措置等の提案を期待します。
96	河川生産力を活かした魚類増殖手法の開 発研究(サクラマス)	内水面水産試験場	△	B	これまで得られた河川での生息環境等の解析を踏まえ、河川環境を利用した増殖手法について早期の開発・提案を期待します。
97	河川の適正利用によるサクラマス資源管 理技術の開発	内水面水産試験場	○	B	国や他機関との連携による効率的な研究開発を進めながら、本県河川の特性に応じた資源管理と再生に向け着実に取り組んでいただきたい。
98	養殖・遊漁を対象とした地場産サクラマス 系統の選抜	内水面水産試験場	×	C	研究の背景が整理されていないようにみえます。これをよく整理したうえで、目的を明確にし、研究計画を再構築すべきでしょう。
99	増養殖技術指導	内水面水産試験場	○	業務	根幹をなす業務で、今後も増養殖指導や魚病診断等継続して取り組まれます。
100	秋季天候不順地域におけるカロテン調整 飼料イネWCS利用による高品質牛肉の生 産	農業総合研究センター 畜産試験場	△	A	大事な課題であり、研究期間も後期に入ることから、カロテン量制御技術の確立を急がれ、研究成果の普及方法、コスト等を具体的に検討し、実用化の行程を明らかにしてください。
101	飼料作物系統適応性検定試験	農業総合研究センター 畜産試験場	○	業務	本県の気候に適した系統が得られるよう、関係機関と連携を図りながら取組み、成果を本県に広く普及されたい。
102	フィールドでの黒毛和種牛肉の食味成分と 関連遺伝子の調査	農業総合研究センター 畜産試験場	○	A	和牛の肉質には複雑な要素が関連していることから、本県が所有するマーカー遺伝子を軸に、地道な努力によりその解明を期待します。
103	トウモロコシサイレージの高栄養化と乳牛 への濃厚飼料代替給与技術の開発	農業総合研究センター 畜産試験場	△	A	研究の推進にあわせ、トウモロコシ栽培農家の確保等、具体的導入に向けた検討も行われたい。
104	和牛子牛の粗飼料給与体系の違いが発育 指標及び血液成分に及ぼす影響	農業総合研究センター 畜産試験場	△	A	データの収集・分析を十分にを行い、信頼性のある評価法を持ちながら、優位性を明らかにした成果を期待します。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	区分	
105	αトコフェロール製剤給与による生産性向上技術の開発	農業総合研究センター畜産試験場	△	A	αトコフェロールによる肝機能の向上について、現象を追うだけでなく、そのメカニズムの解明にも力を注がれた。他の肝機能を向上させる方法について、先行知見等も探索しながら研究を進めてほしい。
106	胚の呼吸量を指標とした胚移植による受胎率向上	農業総合研究センター畜産試験場	○	B	本県研究事業で開発した技術を用いた独創性の高い研究と考えます。受胎率の向上が図られることを期待します。
107	飼料用米の低コスト・多収生産と給与技術の実証	農業総合研究センター畜産試験場	△	業務	生産現場に普及させるためには、低コスト化と家畜に給与した時に従来の餌よりメリットがあることをしっかり実証されたい。具体的な成果を早期に戦略的に提示していく必要があります。
108	豚凍結精液の生存性向上技術の確立	農業総合研究センター畜産試験場養豚支場	△	C	豚の繁殖にとって、凍結法の確立は必須技術であり、多くの研究機関で研究が行われています。先行事例を参考にしながら、しっかりと研究計画を練って成果を出していただきたい。
109	中ヨークシャー種の特性の把握	農業総合研究センター畜産試験場養豚支場	○	業務	地域の要望に応じて実施する研究であり、他種との比較なども明確にした良い成果が得られることを期待します。
110	県産スギ材の材質特性に適合した利用方法の開発	森林研究研修センター	×	A⇒B	研究成果として得られるスパン表のデータの信頼度についても言及するとともに、スパン表が住宅建設(設計)現場にスムーズに普及できるよう、その戦略を整理して進めていただきたい。
111	花粉症低減のためのスギ優良品種の開発	森林研究研修センター	△	A	研究が順調に進んでいることは評価します。本県においてスギ育種を独自に行う必要性について、十分にアピールして進められたい。
112	里山広葉樹二次林の形成過程の解明と管理手法の開発	森林研究研修センター	△	A	本研究から具体的な施業マニュアル作成へと発展することを期待します。
113	スギ人工林の長期循環管理技術の開発	森林研究研修センター	△	A	施業モデルが、森林所有者へわかりやすい形でまとめられるよう留意されたい。
114	庄内海岸クロマツ林の健全管理・更新手法の確立	森林研究研修センター	△	A	クロマツ林の健全な維持のための調査研究として価値があります。管理者をイメージした施業マニュアル作成に留意されたい。
115	里山を利用したきのこ通年発生技術の確立と体系化	森林研究研修センター	△	A	自然環境を生かしたきのこ栽培技術として評価します。開発技術を普及するための具体的な手段を整理して、研究をまとめられたい。
116	山菜王国やまがたの次期主力山菜の開発	森林研究研修センター	△	A	山形県が食資源として誇れる山菜の、増産の面から取り組むべき課題と思います。課題解決の手法を明確にして、産地間競争に勝てる技術開発を期待します。
117	集合フェロモンによるナラ枯れ防除方法の開発	森林研究研修センター	◎	A	優れた成果が得られている研究課題と評価します。コスト面・作業性等を意識しながら、より普及性の高い技術へ改良されることを期待します。
118	スギ雄花形成の機構解明と抑制技術の高度化に関する研究	森林研究研修センター	○	A	県単課題と連携し、早急なスギ品種の育成を期待します。
119	産業用無人ヘリコプターによるスミバインM Cの散布に伴う空中濃度及び生物影響調査	森林研究研修センター	◎	A	庄内クロマツ海岸林の保全のため、取り組んでおかなければならない課題と考えます。順調に研究成果を出しており、早急に実用化されることを願います。
120	広葉樹林化のための更新予測および誘導技術の開発	森林研究研修センター	○	B	共同研究機関と連携して、モデルの検証に努め、具体的な施業マニュアル作成をイメージして研究を進められたい。
121	生物多様性保全に配慮した里山林の評価手法と管理技術に関する調査	森林研究研修センター	○	業務	他の里山の研究課題と連携し、効率的に成果が得られるよう、進めていただきたい。
122	原木栽培における多品目きのこの適応性調査	森林研究研修センター	○	業務	原木栽培によるきのこが、従来栽培に比べて食味や機能性が優れているなど、新たな付加価値についても検討されたい。
123	森林吸収源インベントリ情報整備調査	森林研究研修センター	○	業務	森林の二酸化炭素吸収量の算定に必要な調査と考えます。本県へのデータの還元を期待します。
124	バイオマスエネルギー地域システム化実験に係る木材カスケード利用調査・研究	森林研究研修センター	○	業務	バイオマス・エネルギーの普及・拡大には必須の研究と考えます。本地域システム化実験から実用化をさらに進める研究へと発展することを期待します。
125	園芸産地形成促進のための産地化支援技術の開発	村山産地研究室	△	A	最終年度であり、手法とその効果を明解に整理し、研究成果を技術の普及に結びつけられるように取りまとめられたい。
126	最上山産地ベースアップ技術の開発	最上産地研究室	○	A	想定手法とその効果を明確にし、たらのめの優良系統の選抜とふきのとうの栽培技術の確立により最上ブランドの構築を目指していただきたい。
127	果樹の安定生産技術開発	最上産地研究室	△	A	次のステップに向け、これまでの成果を体系的に整理し、得られた成果と今後の課題をとりまとめていただきたい。
128	特産加工野菜「山形青菜」の出荷期拡大技術開発	置賜産地研究室	○	A	食味や加工性について早期に検討を行い、実用化に向けて課題を明らかにし、研究を進めていただきたい。
129	置賜特産野菜「オカヒジキ」の省力的栽培体系の確立	置賜産地研究室	○	A	FS研究で示された方向性を短期間で技術化し、産地確立に向けて研究を進められたい。
130	夏秋パブリカの安定着果技術の確立	庄内産地研究室	○	A	課題は整理されており、技術開発により着実に解決を図り、早期の産地化を進められたい。
131	米ぬかを活用した土壌病害対策と肥培管理技術の確立	庄内産地研究室	△	B	肥効に関する先行データについても確認、収集するとともに、米ぬか使用の有効性についての解析、検証を早急に行い、本県での実用可能性を検討されたい。
132	おうとう大苗導入園地における安定生産技術確立	庄内産地研究室	△	A	庄内地域での安定したおうとうの栽培技術の確立をめざし、新たな受粉樹を活用し、産地確立に向けて研究を進めていただきたい。

平成20年度県試験研究機関再検討課題 事前評価

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価	区分	
17	木材への機能性付与技術の開発	工業技術センター	△	A	塗装劣化についての定量的な評価は本研究だけでは困難であることから、この期間では木材改質に絞り込んで取り組むこととされ、これまでの指摘事項等を意識しながら研究をとりまとめられたい。
22	県産紅花の加工と活用技術の開発	工業技術センター	△	C	技術移転の方法を具体的にイメージしながら、他機関と連携を密にして進められたい。
49	転換畑大豆の収量と品質を向上させる新たな生産技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部	△	B	気象条件、土壌条件などの外部環境による影響等も十分考えながら、技術の組合せによる相乗効果が確認できるよう工夫して進められたい。
98	関東系ヤマメと地場産サクラマス系統の交雑による影響調査	内水面水産試験場	△	C	関東系ヤマメの実態把握に努めるとともに、これまでの知見等を十分に整理・検討したうえで、サクラマス回帰への影響を解明されたい。
110	県産スギ材の材質特性に適合した利用方法の開発	森林研究研修センター	△	B	研究成果として得られるスパン表のデータの信頼度についても言及するとともに、スパン表が住宅建設(設計)現場にスムーズに普及できるよう、その戦略を整理して進めていただきたい。

平成20年度価値創造型研究開発推進事業採択課題 評価結果

番号	研究課題名	所属名 研究者名	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			評価結果	採否	
【若手研究者スタートアップ推進枠】					
1	機能性ポリマーによる高屈折率材料の開発	工業技術センター 研究員 平田充弘	○	○	実用的価値の高い研究と思います。日照、雰囲気ガスなどを含めた耐環境特性なども押さえながら、いい成果を出されることを期待します。
3	新たな小果樹産地形成のためのベリー類の探索と品質評価	最上総合支庁 産地研究室 研究員 池田泰子	△	○	近年ベリー類の健康機能が知られるようになっており、独自のベリー類の発見、特定できることを期待します。
4	肘折ダイコンの再評価と安定供給による新たな地域特産物の開発	最上総合支庁 産地研究室 研究員 長澤さゆり	△	○	地域特産野菜を普及させるには、他にないセールスポイントが明確である必要がある。食材に対する評価を客観的に固めながら、形質の安定性を確保できるよう検討してください。
5	四季成り性いちごの苗安定生産技術の開発	庄内総合支庁 産地研究室 研究員 荘司善守	○	○	四季なりいちごの作付けの問題点と、その対応などについて具体的な提案である。技術的な課題を整理して、見直しを持ちながら研究を進め、いい成果を出されることを期待します。
【戦略的プロジェクト研究創出枠】					
7	県産砕石粉のデータベース化	工業技術センター 研究員 豊田匡曜	○	○ →若手	産業廃棄物の有効利用をの点で価値がある。ビジネスプランも念頭に、この場だけのデータ収集でなく、日常的にデータが集まり利用できるシステム作りを展開されることを期待します。
8	ポリ乳酸製品性能向上のための金型内熱処理効果の検討	工業技術センター置賜試験場 研究員 後藤喜一	○	○	これまでのデータの蓄積、実用化に向けた研究戦略などがしっかりしている。熱処理にノウハウがありそうですが、理論的裏付けが得られるような展開を期待します。
9	庄内特産資源(赤ネギ)を活用した機能性エキス開発	工業技術センター庄内試験場 専門研究員 菅原哲也	○	○	伝統野菜の規格外品や廃棄部分の利用法として興味を持たれる。機能性エキスの開発にあたっては、ねぎ臭についての対応が必要と思われます。
10	食品産業からの廃シロップ液とすいか選果場規格外残渣液の土壌還元消毒利用技術の開発	農業総合研究センター 農業環境研究部 研究員 塩野宏之	△	○ →若手	基礎データからのモデル予測と実験結果とを活用した予備的実験が欲しい。廃シロップを土壌消毒に実際に使えらるとすると、量やコストなどの検討も必要と思われます。
14	超音波とオゾンマイクロバブルを用いた殺菌装置の試作	山形大学大学院理工学研究科 助教 幕田寿典	△	○	何に利用する殺菌装置を開発するかある程度焦点を絞り、地域への技術展開、知財戦略なども念頭において進めてください。
15	流動層式バイオリクターによる畜産由来臭気除去システムの開発	山形大学大学院理工学研究科 助教 松田圭悟	○	○	既存手法との比較などで本手法を位置付け、知財戦略も明確に持って進め、いい成果が得られることを期待します。地域企業との連携を進めるとさらに良くなります。
16	絹セリシン-ポリ乳酸複合体の合成とその生分解性	鶴岡工業高等専門学校 教授 飯島政雄	○	○	地域の課題として評価できます。成果の市場性などの評価も同時に進めて、いい成果が得られることを期待します。

平成20年度県試験研究機関公募型課題評価結果

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			結果	申請の可否	
1	低コヒーレント干渉計による機上板厚計測装置の評価と改良	工業技術センター	○	可	これまでの成果から、十分推進できる課題と思います。提案書には、これまでの蓄積が見えるように、技術達成目標と次の技術展開とを定量的に記述されたい。
2	画像処理による分光分析に関する研究	工業技術センター	△	可	判別精度の低下をもたらす具体的な外部因子は何か。また、それをどのように判別するか具体的な説明が必要。信頼性の確保とその検証に注力され進められることを期待する。
3	MEMS型可変焦点ミラーの開発	工業技術センター	○	可	動作条件(環境条件等を含め)、動特性、再現性などの評価を十分行って着実な進展を期待する。
4	鉛フリーはんだとの接合信頼性に優れた電子基板の実用化	工業技術センター	○	可	基礎データがしっかりしており、これらのデータの実証試験として価値がある。効果の実証に注力され、また、知財戦略も十分検討しながら進められたい。
5	鋳鉄組織の超微細化技術及び鋳鉄と異種金属との接合技術の開発	工業技術センター	○	可	化学的な耐性や疲労強度などの検討も怠りなく進められたい。県内企業への波及効果が大きいので、目標達成を期待する。
6	フルーツエッセンスによる地域ブランド商品開発	工業技術センター	○	可	これまでの成果と優位性を明示し、天然由来のフルーツエッセンスについてどのような高付加価値ニーズがあるか十分に検討(市場調査も含めて)しながら、魅力をどう表現してゆくかの戦略などにも注力され効果的な成果を得られることを期待する。
7	潮風害による水稻の被害回避技術の開発	農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場	△	可	データ蓄積を重ね、ケイ酸処理による効果について明快な結果を出されることを期待する。全体システムにも、地域の特性を考えながら関与されることを期待する。
8	パプリカの安定生産システムの開発	庄内総合支庁農業技術普及課 産地研究室	△	可	未確立の技術を早期に確立し、本県のビジネスモデルを検討しながら研究を進められたい。また、知財戦略も十分検討しながら進められたい。
9	飼料米の低コスト・多収生産と効果的給与技術の確立	農業総合研究センター 農業環境研究部 生技試庄内支場 畜産試験場	△	可	既存飼料米と比較しての優位性を実証、アピールし、早期に生産現場に普及されるよう期待する。技術の現状と今後の見通し、提案者の持っている強みを具体的に記述するとより説得力が増すでしょう。
10	漁港及び周辺海域の海藻群落の活用と基礎生産量の増大に関する研究	水産試験場	△	可	海藻群落形成のための基礎的条件を早期に解明するとともに、具体的な研究戦略をもって研究に取り組まれたい。
11	イワナ在来個体群の遊漁管理技術の開発	内水面水産試験場	△	可	天然在来イワナの生息条件や増殖手法に関する作業仮説を明確にしたうえで、効果的な研究計画を構築してもらいたい。
12	アユ漁場(釣場・産卵)環境の再生技術開発	内水面水産試験場	△	可	河床耕耘による改善効果がどのような環境変化によってもたらされるのか基礎的なデータを収集・整理したうえで進められたい。
13	コイ産卵場造成技術開発	内水面水産試験場	△	可	コイの産卵・増殖に関する知見を整理し、自然河川に適用するための課題を明確にしたうえで取り組まれたい。
14	ミネラルバランスを考慮した高品質肉用牛生産のための固型塩塩給与手法の開発	農業総合研究センター 畜産試験場	△	可	ミネラルの供給元は、水、飼料など複数の要因が関係するので、他の要因の混入などに十分注意を払われ、実験に取り組んでいただき良い成果を出されること期待します。
15	脂肪酸関連遺伝子の発現量調節技術の開発による美味しい牛肉の生産(1)牛肉脂肪の不飽和度向上に関する遺伝子診断技術の効果的な利用方法の確立	農業総合研究センター 畜産試験場	○	可	遺伝子型効果の発現を調べる興味ある研究である。実験計画を的確に進め、統計的に優位な成果が出ることを期待します。
16	脂肪酸関連遺伝子の発現量調節技術の開発による美味しい牛肉の生産(2)遺伝子発現量調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発	農業総合研究センター 畜産試験場	○	可	脂肪の不飽和度を定める因子は脂肪酸関連遺伝子の発現だけでなく可能性もあります。研究戦略の見通しを早期に立てられるいい成果に到達されることを期待します。
17	和牛肉の甘味成分の解明	農業総合研究センター 畜産試験場	△	可	肉の甘み成分は複数あると考えられます。研究の視点を明確にし研究を進められ、食味向上技術が確立されることを期待します。

平成19年度県試験研究機関一般研究課題評価結果

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			結果	区分	
1	石英ガラスの微細機械加工の実用化研究	工業技術センター	△	-	目的が明確な実用化研究です。これまでの実績、ここでの到達レベルや具体的な製品を明記していただけるとよりわかりやすい。
2	ダリア花酵母の分離と発酵試験	工業技術センター	△	-	糖含量が少ないので、ダリア特有の酵母が生息するとすれば意義は大きい。地域資源を活用した研究として、根気よく追及され、成果を期待する。
3	無垢木材防音型フローリングの防音性能および圧縮性能の評価	工業技術センター	△	-	再現性、信頼性に配慮した系統的な実験を進め、いい成果に到達されることを期待する。
4	有毒防腐剤処理廃木材検査装置の開発	工業技術センター	△	-	信頼性の評価ができ、測定器の製品化につながることを期待する。